

『潰瘍性大腸炎合併大腸癌および前癌病変患者さまに関する診療動向調査』について

潰瘍性大腸炎は原因不明の大腸炎を起こす病気ですが、長期に炎症が継続すると大腸癌を合併するリスクが高いことが知られています。潰瘍性大腸炎の患者さまにおきましては大腸癌は生命予後を規定する重要な合併症です。そこで潰瘍性大腸炎合併大腸癌および前癌病変の患者さまの診療動向を解析することにより、早期発見方法やその治療法を確立できる可能性があります。

そのために、潰瘍性大腸炎合併大腸癌または前癌病変と診断された患者さまの経過を全国規模で調査することにより、一定の見解を得ることができると判断され、このたび、研究班の参加施設を対象に、診療内容に関する調査を実施することといたしました。

●調査の方法

調査を行う施設：難治性腸管障害に関する研究班に参加する施設（医療機関）のうち外科プロジェクトメンバー約 15 施設

対象となる患者さん：2015 年 5 月までに、上記の施設で診断治療された潰瘍性大腸炎合併大腸癌および前癌病変の患者さん

調査項目：性別、年齢、罹病期間、重症度、進行度、再発状況など

調査データは、個人を特定する情報をいっさい含まない形で、研究事務局に集められます。

日本全国の医療機関から集められたこれらの情報を分析し、

①潰瘍性大腸炎合併大腸癌および前癌病変の発生率

②術後長期予後

など、日本の潰瘍性大腸炎合併大腸癌および前癌病変患者さまの実際の動向を把握することができます。

この調査結果は、今後標準治療のさらなる普及を進めるにあたり大変役立つ情報となります。

●調査期間

2015年5月～2020年5月31日

●調査の対象となる患者さんへ

1. この調査で集められるデータは、カルテ等あなたが治療を受けた医療機関にすでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。
2. 事務局に集められた情報から、あなた個人が特定されることはありません。
3. この研究の結果は、学術雑誌や学会にて発表し、潰瘍性大腸炎診療の進歩に役立てていくこととなりますが、公表する際にも個人情報を使用されることはありません。
4. この調査は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して行います。当施設の倫理委員会において、この調査の対象となった方の不利益にならないことや医学の発展に役立つ情報が得られることが確認され、承認を受けています。

●この調査への協力は任意です。

この調査で使用するデータは、カルテ等あなたが治療を受けた医療機関に、すでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。

そのため、患者さんお1人ずつのこの調査へのご協力の意思をあらためてうかがわずに、この「お知らせ」の配布を以て、患者さんのご同意をいただいたものとして実施されます。

調査の趣旨をご理解いただき、この調査にご協力を賜りますようお願いいたします。

この調査でのデータの使用を希望されない場合や、途中からデータの使用取りやめを希望される場合は、下記の「お問い合わせ先」にご連絡ください。

お問い合わせ先
調査実施責任者

◆研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 中央内視鏡・超音波部 藤井久男

奈良県立医科大学附属病院 消化器外科・小児外科・乳腺外科 植田 剛

◆研究事務局

奈良県立医科大学附属病院 消化器外科・小児外科・乳腺外科 植田 剛

◆問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 または 中央内視鏡・超音波部

〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840 番地

電話番号 0744-22-3051 (代表)